

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多様な人々が集う定時制の課程で、勉強がわかる喜び・人に認められ人と理解し合える喜び・夢や志を抱く喜びを伝え、生徒たちに生き生きとした生活を保障する学校をめざす。

1. 生徒が自分の未来を創造できる学校
2. 生徒一人一人が大切にされる安全で安心な学校
3. 地域・家庭と連携し、協力して生徒を育てる学校

2 中期的目標

1 勉強がわかる喜びを伝える

(1) 授業内容が「分かること」の楽しさを体験することで、「学ぶこと」に意欲をもつ生徒を育てる。

ア 生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに取り組み、学力の定着及び出席者の増加を図る。

- ① 生徒の学力に応じたわかりやすい教材を作成し授業を行う。
- ② ICTや視覚教材を用いた授業および参加体験型の授業を導入し、生徒の学習意欲を高める。
- ③ 授業見学、研究授業等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。

※学校教育自己診断で「学校の授業の説明はわかりやすい」の肯定率（H30年度は77%）を2021年度には85%とする。

イ 授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努める。

※学校教育自己診断の「授業中は落ち着いて学習できる」の肯定率（H30年度は73%）を2021年度には75%にする。

ウ ア、イを実践した結果として、授業に出席する生徒を増やし、中退防止につなげる。

(2) 授業において、図書室の利用を促進する。

2 人に認められ人と理解しあえる喜びを伝える

(1) 命の大切さ・人権意識・善悪の判断など、人間としての基本的な倫理観や規範意識を育てる。

ア 生徒指導時のみならず、教科の学習およびHR・総合的な学習の時間、行事等も含めた教育活動全体を通して指導する。

※生徒向け学校教育自己診断における「命、社会のルール」の肯定率（H30年度83%）を2021年度には85%にする。

(2) 様々な教育活動で人と関わる体験を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。

ア 挨拶ができる生徒を育てる。

イ 生徒会行事、遠足、修学旅行等に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに行事に参加できる生徒を育てる。

ウ 各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。

エ ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。

※学校行事等で来校する学校外部の人の数を、前年度より増やす。

(3) 生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。

※保護者向け学校教育自己診断における「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率が2021年度にかけて毎年85%を下回らないようにする。（H30年度77%）

(4) 「様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業」を活用し、フォローアップコーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整え、

H31年度までに、文部科学省が公表する平成26年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率の11.1%以下を目標とする。

※中退率 H26年度 20.6% → H31年度末 11.1%にする。

3 夢や志を抱く喜びを伝える

(1) 生徒が自己の将来について考え、自らの生き方を選択できるように進路指導の充実を図る。

ア 進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。

イ 進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。

ウ 就業体験をする生徒を増やす。

※卒業生徒の進路決定率（H30年度60%）について2021年度は65%以上にする。

※生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の間（No. 15, 16）の平均肯定率（H30年度80%）を2021年度は85%にする。

4 組織の活性化と人材育成

(1) 首席を中心に、経験年数の少ない教員の育成に取り組む。

(2) 職務の効率化の取組み

※年間時間外勤務 → 360h以内

(3) 健康管理（心身のリフレッシュ）

※計画的な年次休暇・振替休暇を所得し、心身の健康の変化に対応する。

府立寝屋川高等学校（定時制の課程）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析（令和元年 12 月実施分）	学校運営協議会からの意見
<p>（肯定率：29 年度→30 年度）</p> <p>生徒用</p> <p>① 勉強がわかる喜びを伝えることについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校の授業は、プリント、スライド、映像等の補助教材も使うなどの工夫をしている」肯定率 81%→84% 教員の大半は ICT を活用しスライドやプリントで授業を行っている。授業の大切さやわかる喜びを理解する生徒が少しづつ増えてきている 「学校の授業の内容に、ついていける」肯定率 75%→75% 「学校の授業の説明は、わかりやすい」肯定率 77%→78% 全教員でわかりやすい授業実践に取り組んでいる結果が、上記のような高い数値で維持できている。 「学校の授業中は、落ち着いて学習できる」肯定率 73%→58% 学校運営協議会の委員から、「授業を見させていただいてアンケートとのギャップに驚いている。」とのご意見をいただいている。学習意欲を持つ生徒が増えてきて、少しの私語でも気なるようになってきた結果ではないかと推測するが、今後更に分析する必要がある。授業中での携帯電話の指導は 100%できている。 <p>② 人に認められ人と理解しあえる喜びを伝えることについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「体育祭、文化祭などの学校行事はみんなが楽しく行っている」肯定率 68%→74% 教員との人間関係がよく図れており、また、全クラス雰囲気も良く仲間意識も少しづつ出てきている。 「学校生活についての先生の指導については理解できる」肯定率 78%→75% 「担任の先生以外にも職員室、保健室等で気軽に相談することができる先生がいる」肯定率 77%→72% 全教職員で生徒に寄り添う指導、生徒に対し傾聴の姿勢で臨むことに取り組んでいる結果としての数字である。指導を継続する。 「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」肯定率 83%→75% 担任による人権 HR や外部講師による講演の結果、高い数字が出ている。 「学校の部活動は必要だと思う」肯定率 74%→70% 部活動加入率は 42%→35%に下がった。今後も生徒に対する働きかけは続けていく。 「自分は、あいさつをするようになった」肯定率 85%→69% 全教員が積極的に取り組んでいるが、今回 16%も下がった。しかし、この数字が現状の数字ではないか。今までが高すぎたのではないか。今後は、もっと呼び掛けていく必要がある。 <p>③ 夢や志を抱く喜びを伝えることについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ホームルームなどで、自分の将来について考える機会がある」肯定率 79%→70% 「学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる」肯定率 81%→79% 数字は少し下がっているが、進路指導部や学年団が計画的に指導を行い、また新たに、卒業生による講演を実施するなど、進路への感心が高めた結果、高い数字に結びついている。 <p>保護者用</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校に行くのは楽しいようだ」肯定率 68%→65% 「学校の授業の内容はわかりやすいようだ」肯定率 75%→74% 「学校の授業中は、落ち着いて学習できるようだ」肯定率 59%→50% 「担任その他の教員に相談しやすい」肯定率 82%→88% 「学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている」肯定率 89%→82% 「学校の生徒指導の方針は理解できる」肯定率 79%→86% 「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」肯定率 77%→85% 「本校に通学することで日常生活により影響を与えているようだ」肯定率 79%→92% 「子どもは、以前と比べるとあいさつをするようになったと思う」肯定率 67%→81% <p>昨年度と比較して肯定率が下がっている項目を見ると、保護者が子供に対する関心が高く、学校全般に対する期待度が高く望まれるようになった表れではないか。また率が上がっている項目は、保護者と教員との連携がうまくいっていることを表している。今後、更に保護者と連携し、一緒になって生徒を指導するようにしていく。</p>	<p>第1回（7/2） 令和元年度学校経営計画について</p> <p>① 「勉強がわかる喜びを伝えること」についての提言</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々のレベルにあった分かりやすい授業を行っていることはありがたい。 身の回りのことを題材に授業を行っていただきたい。（例：消費税など） 一方通行の授業ではなく、双方向の授業にしてもらいたい。 図書室利用の促進をかねているのであれば、図書室司書の配置があれば、有効である。 <p>② 「人に認められ人と理解しあえる喜びを伝えること」についての提言</p> <ul style="list-style-type: none"> テレビや新聞で悲しいニュースが続いているが、命を大切にすることを伝えてあげて欲しい。 生徒指導よりは、生徒だけでなく保護者も学校の様子が分かり、良いと思う。 体育館で行われた体育祭は、生徒の表情が近くで観ることができたので良かった。 <p>③ 「夢や志を抱く喜びを伝えること」についての提言</p> <ul style="list-style-type: none"> 在籍中にできる、生徒のニーズにあったアルバイトの種類を増やしてもらえたら助かる。 卒業してからも、進路の相談に応じてくれていることは、非常にありがたい。 進路に関しても、就職の際に、生徒のニーズにあった求人が増えればありがたい。 <p>第2回（11/27）</p> <p>① 3つの授業を見学した後の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生の説明が年々わかりやすくなっている。生徒が積極的に授業に参加しており生徒と教員とのやり取りが活発だった。 授業の合間にある雑談の方が、後の人生で覚えている。生徒が食いつくような話もあり良かった。 スライドを使った視覚的な授業に、生徒がしっかり顔を上げ、内容に反応していた。机間巡視も良かった。 生徒が積極的に発言するのは、意見を言いやすい雰囲気ができていて良いと思う。また、授業展開にもテンポがあった。 遅刻者が少なく、教室にいる生徒の数が多。 今日の目標が、黒板の端に明示されていて、分かりやすかった。 <p>② 第1回授業アンケート結果についての提言</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業を見させていただいてアンケートとのギャップに驚いている。 生徒が授業を受けて「できた」と感じたかという質問の肯定的回答を増やしてあげて欲しい。 <p>③ 行事の参加人数と図書室の利用人数について</p> <ul style="list-style-type: none"> 明月祭の PTA の模擬店に手伝いに来てくださる保護者の方が、増えると役員としてありがたい。 球技大会では、ドッジボールが得意な生徒も、苦手な生徒も参加していて、お互い協力しているのが良かった。 生徒が持ち帰る図書日より「図書室へ行こう」を読んでいるが、保護者も「先生のおすすめ」というコーナーが好きなので、載せる回数を増やして欲しい。 <p>④ 分掌・各学年の取組みの進捗状況についての提言</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学校校長として生徒がお世話になることが多く、きめこまかな指導をしていただいて、ありがたく思っている。 定時制に通いながら、昼間に何をするのかを、卒業後何をするのかを、支援できるような社会全体で考えなくてはならない。 「進路未決定者を出さない指導をめざす」という言葉に安心した。 自分の好きなことを仕事にするのが1番幸せだと思うが、なかなかそのようにはいかない。そのような状況においても、前向きに進路決定できるような指導をしてあげてほしい。 <p>第3回（2/18）</p> <p>① 令和元年度学校教育自己診断と検討結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者の肯定的な回答が多くなっている。それは、学校での生徒指導や保護者対応ができてきていると思う。 現在、生徒支援が重要になってきている。困っている生徒へのサポートやコミュニケーション能力を向上させる取り組みが学校に求められている。本校はそれが徐々にではあるが進められている。 <p>② 第2回授業アンケート結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業に対する評価が上がっているのは、授業見学して理解できた。それぞれの生徒に視線を合わせて、誰が受けても分かりやすい授業を展開している。 教員の生徒に対する想いが強い学校だと思うので継続してほしい。

府立寝屋川高等学校（定時制の課程）

- ③ 令和元年度学校経営計画及び自己評価と令和2年度学校経営計画及び自己評価（案）について
- ・授業アンケートの結果が向上していることに満足せず、さらに分かりやすい授業をめざしてほしい。
 - ・困っている生徒への支援体制がポイントとなると思われるが、上手く回っている。
- ④ 各種委員会からの説明についての提言
1. 人権・道徳教育推進委員会
 2. 教育相談委員会
 3. 中途退学防止
- ・人の命と権利が大切だということを教えてあげて欲しい。
 - ・入学した生徒を退学させることなく進級、卒業させてあげてほしい。

府立寝屋川高等学校（定時制の課程）

本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 勉強がわかる喜びを伝える	<p>(1)「分かること」の楽しさを体験できる授業づくり</p> <p>ア 生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに取り組み、学力の定着及び出席者の増加を図る</p> <p>イ 授業規律について指導する意識を共有し、生徒が落ち着いて学習できる環境づくりに努める。</p> <p>ウ ア、イを実践した結果として、生徒の授業への出席率を増やし、中退防止につなげる。</p> <p>(2) 授業において、図書室の利用を促進する。</p>	<p>ア 生徒が「分かった」と実感できる授業づくりに向け以下の点に取り組む。</p> <p>①・授業の目的や大切なポイントを説明する ・授業ではわかりやすい説明をする。 ・授業中に生徒の知識・技能の定着をはかるための時間を取る。</p> <p>②・生徒の学力に応じた教材の作成や補助教材（I C Tや視聴覚教材）の使用等により工夫して授業を行う。 ・教材は共有し、教材作成の負担軽減を図る。 ・授業の中で生徒に考えさせる時間を取る ・授業の中で生徒にコミュニケーション能力が身につく仕掛けづくりをし、生徒とコミュニケーションを取る。</p> <p>③・授業見学、研究授業、研修等により、各教員が指導法の工夫・改善に取り組む。</p> <p>イ・授業規律を確立するために、教職員が一丸となって生徒に注意をする。 ・授業中の携帯電話指導を継続する。</p> <p>(2) 授業において図書室利用することで、生徒の利用を促す取り組みをする。</p>	<p>ア</p> <p>①・学校教育自己診断で「学校の授業の説明はわかりやすい」の肯定率を3%上げる（H30, 77%） ・授業アンケート「先生はわかりやすく説明してくれる」の学校平均を0.05上げる（H30, 3.45） ・「授業内容に興味関心を持つことができた」の学校平均を0.05上げる（H30, 3.16） ・「授業を受けて知識や技能が身に付いた」の学校平均を0.05上げる（H30, 3.20）</p> <p>②・学校教育自己診断で「学校の授業は、プリント、スライド、映像等の補助教材を使うなどの工夫をしている」の肯定率を3%上げる（H30, 81%） ・授業アンケート「先生は様々な教材を工夫して授業を行っている」の学校平均を0.05上げる（H30, 3.35） ・「先生は授業中生徒とコミュニケーションを取っている」の学校平均を0.05上げる（H30, 3.46）</p> <p>③・年2回以上研究授業や授業研修を行う</p> <p>イ</p> <p>・「先生は授業中してはいけないことをしている生徒に対し注意をしている」の学校平均を0.05上げる（H30, 3.41） ・授業アンケート「私は授業中、携帯・居眠り・私語をしていない」の学校平均0.05上げる（H30, 3.35） ・学校教育自己診断で「授業中は落ち着いて学習できる」の肯定率を3%上げる（H30, 73%）</p> <p>ウ・H30年度中退率（10.5%）より1%下げる。</p> <p>(2)</p> <p>・全校生徒が、延べ3回以上図書室を利用するようにする。H30年度の、一人当たり3回の利用を下回らない。 ・毎月の生徒の図書貸し出し数の増加（貸し出し数調査は昨年度から開始） 昨年度全校生徒の33%へ貸出し</p>	<p>ア</p> <p>①</p> <p>・学校教育自己診断で「学校の授業の説明はわかりやすい」の肯定率は78%で1%上がった（△） ・授業アンケート「先生はわかりやすく説明してくれる」の学校平均が0.06上がった（○） ・「授業内容に興味関心を持つことができた」の学校平均が0.18上がった（○） ・「授業を受けて知識や技能が身に付いた」の学校平均が0.16上がった（○）</p> <p>②</p> <p>・学校教育自己診断で「学校の授業は、プリント、スライド、映像等の補助教材を使うなどの工夫をしている」の肯定率は84%で3%上がった（○） ・授業アンケート「先生は様々な教材を工夫して授業を行っている」の学校平均が0.1上がった（○） ・「先生は授業中生徒とコミュニケーションを取っている」の学校平均が0.02上がった（△）</p> <p>③</p> <p>・2回の授業見学週間、1回の授業研修を実施（○）</p> <p>イ</p> <p>・「先生は授業中してはいけないことをしている生徒に対し注意をしている」の学校平均が0.07上がった（○） ・授業アンケート「私は授業中、携帯・居眠り・私語をしていない」の学校平均が0.1上がった（○） ・学校教育自己診断で「授業中は落ち着いて学習できる」の肯定率は58%で15%下がった（△） ・生徒の授業アンケートにおいては、おおむね目標とした数値は達成できた。次年度においても引き続き取り組む。</p> <p>ウ</p> <p>・3月末現在の中退率は7.2%（○）</p> <p>(2)</p> <p>図書室利用者数1,112人（△） ・今年度は授業において図書室の利用をしたが、次年度は生徒が自ら本を借りて読むことについても考えた。</p>

府立寝屋川高等学校（定時制の課程）

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 人に認められ、人と理解しあえる喜びを伝える</p>	<p>(1) 基本的な倫理観や規範意識を育てる。 ア 教科の学習およびHR・総合的な学習の時間等も含めた教育活動全体を通じた指導</p> <p>(2) 人と関わる体験を通して、コミュニケーション能力の育成を図る。 ア 挨拶ができる生徒を育てる。</p> <p>イ 生徒会行事、遠足、修学旅行等に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに行事に参加できる生徒を育てる</p> <p>ウ 各種行事において、保護者や地域住民および地域の中学校教員と積極的に連携・交流を図る。</p> <p>エ ボランティア活動や部活動等を通し、学校に対する誇りと自己肯定感を育てる。</p> <p>(3) 生徒指導に際して、各教員が生徒との人間関係を大切にしながら、家庭・中学校・地域との連携を密にして取り組む。</p> <p>(4) 中退防止コーディネーターを中心に困難を抱える生徒への支援体制を整える。</p>	<p>(1) ア・全教職員がすべての教育活動を通して、また、外部人材等を有効活用しHR及び総合的な学習の時間を計画的に実施することで、「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さ」について考える機会を設ける</p> <p>(2) ア・教職員から生徒に積極的に挨拶するとともに、挨拶をすることの大切さについて生徒に伝える機会を設ける。 ・始業・終業時に挨拶ができるようにする。</p> <p>イ・生徒を中心とした生徒会行事の企画運営を行う。 ・行事に参加する生徒の人数を増やす。</p> <p>ウ・各種行事に対する広報活動の活発化 ・体育祭・文化祭へ地域の方を招待する。 ・「授業参観日」の名称を「授業見学会」に変更し、期間を3日間開催し、保護者・地域住民・地域の中学校教員等に積極的に参加を呼び掛ける。</p> <p>エ・ボランティア活動の継続 ・部活動の活性化をする。</p> <p>(3) ・生徒に対し傾聴し、理解し、話し合いによる指導を実践する。 ・各教員が家庭連絡を密にする。 ・HP等で学校の情報を発信する。</p> <p>(4) 中退防止コーディネーターを中心にSCやSSWとともに、困難を抱える生徒への支援体制を整え、生徒個々に対応した指導をおこなう。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断における「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率を2%向上させる (H30, 83%)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断の「自分は挨拶をしている」の肯定率を3%向上させる。(H30, 85%)</p> <p>イ・学校教育自己診断「体育祭、文化祭などの学校行事は楽しい」の肯定率を3%上げる。(H30, 72%) ・行事の生徒参加率を体育祭、文化祭ともに50%以上に保つ。(H30, 体育祭 51%、文化祭 53%)</p> <p>ウ・体育祭、文化祭に来校する保護者、地域住民、中学校教員等の人数を前年度より増やす。(H30、合計 492名)</p> <p>エ・ボランティア活動の継続 ・部活動加入率 (H30, 42%)を3%増加させる。</p> <p>(3) ・学校教育自己診断における「先生の指導について理解できる」の肯定率を3%上げる (H30, 78%) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率が85%を下回らないようにする。(H30, 77%)</p> <p>(4) 中退率を1%下げる。(H30, 10.5%)</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断における「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある」の肯定率8%下がった (△)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断の「自分は挨拶をするようになった」の肯定率16%下がった (△) ・来年度も同じように日々の生活の中であいさつを教員から率先して行い、あいさつの大切さを呼びかけていく。 イ・学校教育自己診断「体育祭、文化祭などの学校行事は楽しい」の肯定率が6%上がった (○) ・行事の生徒参加率、体育祭、文化祭ともに1.1%増えた (○) ウ・体育祭、文化祭の外部来校者人数が、199人減る (△) ・体育祭・文化祭は大きな盛り上がりを見せている。 2行事合わせた外部来場者数が増えてきている。 エ・ボランティア清掃は昨年同様3回実施された。参加者がなかなか増加しない (△) ・部活動加入率が7%減った (△)</p> <p>(3) ・学校教育自己診断における「先生の指導について理解できる」の肯定率が3%下がる (△) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている」の肯定率が8%上がった (○)</p> <p>(4) 中退率は3月末現在で7.2% (○)</p>
--	--	---	--	---

府立寝屋川高等学校（定時制の課程）

<p style="text-align: center;">3 夢や志を抱く喜びを伝える</p>	<p>(1) 進路指導の充実を図る。</p> <p>ア 進路に関する十分な情報を生徒に提供するとともに、保護者にもその情報が届くようにする。</p> <p>イ 進路ガイダンス機能の充実を図るとともに、個々の生徒のニーズに合った進路指導をする。</p> <p>ウ 就業体験をする生徒を増やす。</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路HRや総合的な学習の時間を進路指導計画の中で明確に位置づけ、情報提供を行う。 ・外部機関や卒業生と連携し、生徒が色々な人の生き方に触れる機会を設ける。 ・生徒に提供した情報が保護者にも届くようにする。 <p>イ・担任が生徒と十分話し合うとともに、担任が進路担当者との連絡を密にする。</p> <p>ウ・一人でも多くの生徒が充実した就業体験ができるように指導する。</p>	<p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における「自分の将来について考える機会がある」の肯定率を3%上げる。(H30, 79%) ・学校教育自己診断における「学校は就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる」の肯定率を3%上げる。(H30, 81%) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている」の肯定率を85%にする。(H30, 89%) ・卒業生の進路決定率を65%以上にする。(H30, 60%) <p>ウ・生徒の5月時点の就業率よりも年度末の就業率を5%高くする。</p>	<p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における「自分の将来について考える機会がある」の肯定率が9%下がる(△) ・学校教育自己診断における「学校は就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる」の肯定率が2%下がった(△) ・保護者向け学校教育自己診断における「学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている」の肯定率が7%下がった(△) ・卒業生の進路決定率は66%3月現在(○) ウ・生徒の3月の就業率は5月時点の就業率よりも26%上がった。(○)
<p style="text-align: center;">4 校内組織の活性化と人材育成</p>	<p>(1) 校内組織の活性化と職務の効率化の取り組み</p> <p>ア 首席を中心に経験年数の少ない教員の育成に取り組む</p> <p>イ 時間外勤務を軽減させる</p> <p>ウ 自身の健康について管理する。</p>	<p>ア・首席が中心となり、経験年数の少ない教員の育成を主眼とした研修を計画し、実施する。</p> <p>イ・職務が勤務時間内に終わるよう、効率的に取り組む。</p> <p>ウ・自らが、健康管理をしっかり行い、心身共にリフレッシュできる環境をつくる。</p>	<p>ア・年間を通して育成のための研修が2回実施できたか(H30, 2回)</p> <p>イ・年間を通して時間外勤務を360h以内にする(H30, 全教職員が360h以内)</p> <p>ウ・年間を通して、計画的に年次休暇・振替休暇の所得を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心身が健康で過ごせるよう、職場において他の者へ相談できる体制を自らつくる。 	<p>ア・具体的な提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各委員会の点検及び見直しを実施した ・校内内規集の点検及び見直しを実施した ・業務や行事等についての実施マニュアルを作成した。(○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が、年間を通して時間外勤務を3月末時点360h以内にした。 <p>(2)・経験年数の少ない教員の育成を主眼とした研修を2回実施(○)</p>